

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		中山間地域所得向上支援事業		グループ・担当名	耕地林務グループ事業担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	02 農業の振興			項	01 農業費
	施策(中)	07 生産基盤の保全・整備			目	06 農地費
	施策(小)	01 畑総事業等による土地基盤整備事業の推進			大事業	03 団体営土地改良事業
事業期間	2年度		平成28年度～平成29年度			
要求区分	新規		マニフェスト	-		
根拠法令等	H28補正事業			経費区分	投資的経費	
事業概要	中山間地域等において、収益性の高い農産物の生産・販売等により、所得向上を確実に図る中山間地域所得向上計画を市町村が策定し、その計画に基づき、基盤整備や施設整備等を実施する。(国の平成28年度補正予算による事業) 基盤整備事業実施内容 実施主体：JAびほろ、総事業費：6,927千円、事業内容：定額助成による暗渠排水、受益面積：3.01ha					
事業目的	暗渠排水、客土等の基盤整備を実施し、収益性を上げる農用地にすることにより、所得向上を図る。					
事業の対象	農用地					
実施結果	【実施結果】 事業実施主体である農協への補助金の交付					
現状と課題	【現状と課題】 国の補正予算により実施した事業					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	3,637	0	0
国支出金	-	-	-	0	0	-
道支出金	-	-	-	3,637	0	-
地方債	-	-	-	0	0	-
その他	-	-	-	0	0	-
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	0	3,637	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	暗渠排水実施面積	目標	ha			3.01	0	0
		実績	ha		0	3.01		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	国の補正予算により実施した事業であり、町が事業主体、農協が実施主体として実施したことは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	実施した暗渠排水は、農地の収益向上に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	補助要綱に合わせた実施であり、効率的である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止 国の補正予算による事業のため。		評価結果
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減 国の補正予算による事業のため。		
		予算反映額 (概算)	0千円	休止・廃止

今後の改善点	
--------	--

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		有害鳥獣対策事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	02 農業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	01 農業生産環境の保全・整備			目	01 林業総務費
	施策(小)	04 農作物への食害防止対策			大事業	01 有害鳥獣対策事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律				経費区分	政策的経費
事業概要	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき、野生鳥獣の保護管理や、有害鳥獣の駆除及び駆除の的確な指導を行う事業である。 事業に係る業務として次のとおりである。 ・有害鳥獣駆除・捕獲業務（カラス・ヒグマ・キツネ等） ・有害鳥獣駆除捕獲許可事務					
事業目的	有害鳥獣による各種被害の削減					
事業の対象	有害鳥獣被害を受けている町民					
実施結果	【実施結果】 有害駆除捕獲許可（手捕り、箱わな、銃器により行う）					
現状と課題	【現状と課題】 有害鳥獣の駆除及び駆除の的確な指導を行っているが、農作物への食害防止、市街地内での対応を強化する必要がある。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,065	974	1,453	1,270	1,160	1,189
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	1,065	974	1,453	1,270	1,160	1,189
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	1,065	974	1,453	1,270	1,160	1,189

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	有害鳥獣駆除許可による捕獲数	目標	羽・		1,400	1,400	1,400	1,400
		実績	羽・	1,284	1,267	1,158		
		達成率	%		90.5	82.71		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	有害鳥獣による各種被害の削減に寄与しているため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	有害鳥獣の駆除や一斉駆除を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 有害鳥獣業務（捕獲及び駆除）に従事した時に特殊勤務手当として有害鳥獣業務手当を導入の検討		予算反映額 (概算)	0千円		現状維持	
今後の改善点	市街地内での銃器使用が禁止しているため、市街地外周辺及び登栄終末処理場内、一斉駆除を年数回実施した。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		町有林造林事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	01 森林の整備			目	03 町有林管理費
	施策(小)	02 計画的な町有林造成			大事業	01 町有林造林事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町森林整備計画・美幌町森林経営計画			経費区分	投資的経費	
事業概要	<p>【投資的経費】 町有林森林経営計画に基づき、町有林（学校林を含む）の計画的な造林・保育・伐採を実施し、成長の増大を図る。</p> <p>また、FSC森林認証の取得拡大及び維持のため国際基準に基づき適切な管理を行う。 ○美幌町FSC森林管理認証山林面積4,458.05ha（平成28年6月30日現在）</p>					
事業目的	成長の増大を図る					
事業の対象	町有林					
実施結果・現状と課題	<p>【実施結果】 町有林の計画的な造林・保育・伐採の実施</p> <p>-----</p> <p>【現状と課題】 国、北海道の補助金枠の増減で補助事業の見直しをすることとなり、計画的な取り組みをしている。</p>					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	33,509	30,204	42,258	33,334	54,553	46,024
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	10,684	9,153	17,406	11,835	23,265	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	5,013	3,064	784	3,395	5,288	-
一般財源	17,812	17,987	24,068	18,104	26,000	46,024
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	33,509	30,204	42,258	33,334	54,553	46,024

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	町有林管理面積	目標	ha		1,186	1,200	1,200	1,200
		実績	ha	1,186	1,186	1,186		
		達成率	%		100	98.83		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町有林森林整備経営計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	町有林（学校林を含む）森林整備を行うことは林業の活性化に寄与しているため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国、北海道の補助金枠の増減で計画的に取り組んでいるため適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが妥当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	国・道の補助金枠の減少で補助事業の見直しを行い、必要最小限で取り組んだ。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		治山林道施設整備推進事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 治山・治水対策の推進			項	02 林業費
	施策(中)	03 治山対策の推進			目	02 林業振興費
	施策(小)	02 災害未然防止のための状況調査等の継続			大業	01 治山林道施設整備推進事
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	山地災害防止のための状況調査、各種治山施設及び既存林道の維持補修を行う。					
事業目的	適切な維持管理					
事業の対象	治山施設・林道					
実施結果	【実施結果】 点検・補修等					
現状と課題	【現状と課題】 災害箇所把握を数班に分かれ確認作業を行っており、災害発生時には早急な対応が求められる。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	585	2,337	1,058	935	1,203	1,210
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	585	2,337	1,058	935	1,203	1,210
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	585	2,337	1,058	935	1,203	1,210

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	治山・林道危険箇所調査	目標	回			15	15	15
		実績	回	15	15	15		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	災害未然防止対策が求められる中、未然防止の状況調査等の取り組みは必要であり妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	近年、自然災害が増加しており、災害未然防止を行うことは有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	既存林道等の点検、維持補修は直営で行うことにより経費削減に貢献している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが適当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	災害箇所把握のため数班にわかれ、確認作業を行った。 災害発生箇所を通行止め等を行い、早期修繕の発注を行った。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		林業推進事務		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	03 経営の近代化・効率化の推進			目	01 林業総務費
	施策(小)	01 林業グループの育成・組織強化及び青年林業士を活用した			大事業	02 林業推進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	-
事業概要	山火事予消防対策・美幌町産FSC森林認証材の利用促進及び森林の二酸化炭素吸収機能の活用により、企業や社会の環境貢献活動として森林づくりや地球温暖化防止などの森林の公益的機能の向上を図る。 ・山火事予消防対策 ・林業構造改善の推進 ・企業の森林づくり、カーボンオフセットの取り組み					
事業目的	林業の普及促進					
事業の対象	林業全般					
実施結果	【実施結果】 カーボンオフセットの取組、関係機関との連携					
現状と課題	【現状と課題】 森林の公益的機能の向上を図るためには関係機関、企業等の連携を図る必要がある。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	8,802	16,114	1,703	7,792	1,879	4,000
国支出金	5	8,669	-	-	5	-
道支出金	0	0	-	-	0	-
地方債	0	0	-	-	0	-
その他	6,588	4,869	-	-	252	-
一般財源	2,209	2,576	1,703	7,792	1,622	4,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	8,802	16,114	1,703	7,792	1,879	4,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	植樹祭等の回数	目標	回		7	7	7	7
		実績	回	7	8	8		
		達成率	%		114.29	114.29		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地球温暖化防止などの森林の公益的機能が求められる中、今後とも企業との森林づくりなど推進させる必要があり、妥当である。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	企業や社会の環境意識が高まっており、森林づくりの活性化に寄与しているため有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	企業の森林づくりを通して、森林整備協定などを行うことで適正な経費となっている。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが適当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	FSC認証コアドライ材の普及促進を地域おこし協力隊と共にPR、商談会を行い普及を図る。 また、more trees (代表 坂本龍一) によるモニターツアーの企画実践を行い、美幌町の魅力をPRする。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		町産材活用促進事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	02 付加価値の向上			目	01 林業総務費
	施策(小)	02 FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化			大事業	02 林業推進事業
事業期間	10年度以上		平成19年度～平成35年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町農林業振興条例町長マニフェスト			経費区分	投資的経費	
事業概要	美幌町産FSC森林認証材の利用促進により、森林資源の地産地消の推進・町内経済の活性化・町内住宅の良質な住環境整備、木材の付加価値向上を図る。 ・美幌町産材活用促進事業補助金 町内で産出されたFSC認証木材を使用し、町内に住宅を新築又は増改築、建売住宅を購入し当該住宅に居住する者に対し経費の一部を補助する。					
事業目的	認証材住宅の普及拡大					
事業の対象	町産認証材					
実施結果	【実施結果】 認証材住宅の建築費補助					
現状と課題	【現状と課題】 認証材住宅の普及拡大を図るためFSC認証コアドライ材を町内外及び工務店等へ普及促進する必要がある。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	12,840	8,280	18,156	7,463	18,273	16,800
国支出金	6,420	4,140	7,830	4,040	7,830	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	0	0	0	706	-
一般財源	6,420	4,140	10,326	3,423	9,737	16,800
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	12,840	8,280	18,156	7,463	18,273	16,800

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	FSC認証材使用量	目標	m3		550	500	500	500
		実績	m3	327	213	159		
		達成率	%		38.73	31.8		
指標2		目標						
		実績						
指標3		目標						
		実績						
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域材を利用し木材の地産地を推進するためには木材の付加価値向上と利用促進が必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内住宅の住環境整備への視点等取組みは、美幌町産FSC森林認証材の成長・発展に繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町産材活用促進事業補助金を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。						評価結果
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが妥当である				予算反映額 (概算)	0千円	現状維持
今後の改善点	FSC認証集成材とFSC認証コアドライ材とのコスト差を調整							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		木質ペレットストーブ購入促進事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	05 木質バイオマスの普及促進			目	01 林業総務費
	施策(小)	01 木質の利活用推進			大事業	02 林業推進事業
事業期間	10年度以上		平成20年度～平成35年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町地域新エネルギービジョン			経費区分	投資的経費	
事業概要	「美幌発低炭素な町づくり」「美幌町新エネルギービジョン」に基づき、化石燃料の代替によるCo2排出削減及び木質バイオマスエネルギーの推進のため、木質ペレットストーブの利用促進を図る。 ・木質ペレットストーブ購入補助金 最大40万円を上限に購入経費の2/3補助					
事業目的	ペレットストーブの普及拡大					
事業の対象	ペレットストーブ					
実施結果	【実施結果】 ペレットストーブ購入費助成					
現状と課題	【現状と課題】 「美幌町新エネルギービジョン」に基づき、目標100台に向けて、町民及び工務店等へ普及促進する必要がある。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	2,187	701	4,032	1,616	4,034	4,000
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	2,100	700	4,000	1,500	4,000	-
その他	0	0	0	0	0	-
一般財源	87	1	32	116	34	4,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	2,187	701	4,032	1,616	4,034	4,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
指標1	町内木質ペレットストーブ設置累計台数	目標	%			68	78	80	90
		実績	%		58	60	63		
		達成率	%			88.24	80.77		
指標2		目標							
		実績							
指標3		目標							
		実績							
		達成率	%						
項目	評価の視点		評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	「低炭素な町づくり」及び「美幌町新エネルギービジョン」に基づく事業であり実施主体は町が妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	化石燃料の代替によるCO2排出削減への取組みは、地球温暖化防止の発展に繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	木質ペレットストーブ購入補助金を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 過疎ソフト			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持	
今後の改善点	ペレットストーブの台数を確保(新エネで100台)することにより、ペレット販売店との価格交渉を行う。								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		エコハウス維持管理事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当		
				評価者名	経済部長 矢萩 浩		
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ			予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	07 生活環境保全・緑化活動の推進				項	02 林業費
	施策(中)	01 環境共生に向けた総合的な取り組み				目	01 林業総務費
	施策(小)	01 地球温暖化防止に向けた取り組みの推奨				大業	02 林業推進事業
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		マニフェスト	-			
根拠法令等	美幌町エコハウス条例				経費区分	政策的経費	
事業概要	環境共生型モデル住宅「びほろエコハウス」の利用促進により地域の活性化を図る。 ・エコハウス維持管理（清掃業務等）						
事業目的	宿泊者の増加						
事業の対象	エコハウス						
実施結果	【実施結果】 PR、清掃その他維持管理を行う						
現状と課題	【現状と課題】 地域の活性化を図るため、利用者数の増となるように更なる普及促進する必要がある。						
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容			

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	3,823	3,868	2,908	2,908	2,917	3,900
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	1,734	2,135	1,509	2,370	1,509	-
一般財源	2,089	1,733	1,399	538	1,408	3,900
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	3,823	3,868	2,908	2,908	2,917	3,900

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	エコハウス見学・宿泊者数	目標	人		1,000	1,000	1,000	1,000
		実績	人	780	963	641		
		達成率	%		96.3	64.1		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地球温暖化防止を推進するために、環境共生型モデル住宅であるエコハウスが必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	エコハウス利用者は増加しており、地域の活性化に寄与しているため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	美幌みどりの村振興公社がPR、清掃その他維持管理を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが適当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		林業館管理事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	04 森林の有効活用			目	01 林業総務費
	施策(小)	02 木とふれあう場所の整備			大業	02 林業推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	美幌林業館きてらす（美幌駅併設）の維持管理及び林業館を通して木育活動の推進を図る					
事業目的	木育推進、PR、清掃その他維持管理					
事業の対象	林業館きてらす					
実施結果	【実施結果】 入館者数の増加					
現状と課題	【現状と課題】 林業館を通して木育活動の推進を図るため、安全安心な施設を保ち、入館者数の増加に繋げる定期的な遊具更新が必要である。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,672	7,035	3,604	3,604	3,495	3,920
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	1,672	7,035	3,604	3,604	3,495	3,920
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,672	7,035	3,604	3,604	3,495	3,920

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	延べ入館者数	目標	人		30,000	75,000	100,000	120,000
		実績	人	20,437	50,075	65,040		
		達成率	%		166.92	86.72		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	林業全般及び木育活動を推進するためには、屋内施設であり町内外から利用できる林業館が必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	入館者数は増加しており、地域の活性化及び木育活動の推進には有効である					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	観光物産協会がPR、清掃その他維持管理を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 利用促進及びPR、木育活動の拠点とするため新規遊具の導入と更新が必要。		予算反映額 (概算)	100千円		拡充	
今後の改善点	木製遊具の更新							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		未来につなぐ森づくり推進事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	01 森林の整備			目	02 林業振興費
	施策(小)	01 森林環境保全整備			大事業	02 民有林振興対策事業
事業期間	10年度以上		平成23年度～平成35年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町森林整備計画未来につなぐ森づくり推進事業実施要綱(道)			経費区分	投資的経費	
事業概要	民有林の振興と地域林業の活性化を図る。 公共造林事業の上乗せ補助として、伐採後の確実な植林を支援するとともに、伐採跡地の植林に対して補助する事で、無立木地の解消を図る。 ○補助額 総事業費の26%(負担割合:道16/26・町10/26)					
事業目的	森林資源の循環利用を図る。					
事業の対象	森林所有者					
実施結果	【実施結果】 公共造林事業により実施した植林のうち、事業費の一部を上乗せ補助する。					
現状と課題	【現状と課題】 森林環境保全整備として、伐採跡地の植林を所有者及び関係団体へ普及していく必要がある。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位:千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	36,582	31,746	32,760	28,565	32,760	36,036
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	22,512	19,536	20,160	17,579	20,160	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	0	0	0	800	-
一般財源	14,070	12,210	12,600	10,986	11,800	36,036
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	36,582	31,746	32,760	28,565	32,760	36,036

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	植栽面積	目標	ha		200	200	220	220
		実績	ha	207.79	179.63	49.29		
		達成率	%		89.82	24.64		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	伐採後の確実な植林を推進するためには、本事業の取組みを継続する必要があり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	伐採跡地の植林への支援取組みは、林業全体の森林整備の成長に繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	未来につなぐ森づくり推進事業補助金を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが適当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		認証林普及事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	02 付加価値の向上			目	02 林業振興費
	施策(小)	01 森林認証林の拡大			大事業	02 民有林振興対策事業
事業期間	10年度		平成26年度～平成35年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	<p>【投資的経費】 FSC森林認証制度による環境に配慮した森林保全の取り組みを進める上で、認証材と非認証材（一般材）との価格が変わらないなど、森林所有者へのメリットがなく、森林認証を取得しづらい状況となっている。このことから、認証木材購入による川上への補助を行うことにより、森林認証エリアの拡大を進め、自然環境に配慮した質の高い森林保全を図る。</p>					
事業目的	一般材と森林認証材の差別化を図る。					
事業の対象	森林所有者					
実施結果	【実施結果】 森林認証エリアからの原木について、付加価値を付ける。					
現状と課題	【現状と課題】 一般材と森林認証材の差別化を図るため、FSC森林認証制度による環境に配慮した森林保全を取組み、より質の高い森林保全を図る必要がある。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	2,353	1,912	2,500	727	2,500	2,500
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	883	-
一般財源	2,353	1,912	2,500	727	1,617	2,500
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	2,353	1,912	2,500	727	2,500	2,500

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	生産量	目標	m3		5,855	5,855	5,855	5,855
		実績	m3	5,372	4,398	1,687		
		達成率	%		75.12	28.81		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	FSC認証材と非認証材（一般材）との差別化を図り、自然環境に配慮した質の高い森林保全が必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	森林認証エリアの拡大を進め、FSC認証材への支援取組みは、森林認証取得と環境に配慮された森林づくりの発展に繋がるため					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	認証林普及事業補助金を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが妥当である			予算反映額 (概算)	0千円	現状維持	
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		民有林振興事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	01 森林の整備			目	02 林業振興費
	施策(小)	01 森林環境保全整備			大業	02 民有林振興対策事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	-
事業概要	民有林の振興と地域林業の活性化及び林業労働者の労働条件の改善を図る。森林経営計画の認定及び伐採届出書の受付・処理を行う。					
事業目的	民有林の一層の推進を図る					
事業の対象	林業従事者、森林所有者、森林組合					
実施結果	【実施結果】 林業従事者への支援、森林経営計画の認定、森林組合への補助					
現状と課題	【現状と課題】 地域林業の活性化をすることに林業労働者の減少に歯止めがかかるよう林業従事者への支援や高性能林業機械の情報収集を行う必要がある。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	2,109	1,875	1,868	1,875	2,186	2,186
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	2,109	1,875	1,868	1,875	2,186	2,186
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	2,109	1,875	1,868	1,875	2,186	2,186

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	森林整備担い手就労者人数	目標	人			51	55	55
		実績	人	51	47	55		
		達成率	%		92.16	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域林業の活性化が求められる中、今後とも民有林全般の推進される必要があり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	民有林全般への支援取組みは、地域林業の発展及び林業労働者への労働条件の改善に繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	民有林振興対策事業補助金を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画を進めることが適当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	高性能林業機械の開発及び雇用条件の見直し。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		地場産材利用促進事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	02 付加価値の向上			目	01 林業総務費
	施策(小)	02 FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化			大事業	02 林業推進事業
事業期間	終期未定		平成28年度～平成35年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町地域材利用推進方針			経費区分	投資的経費	
事業概要	FSC® 森林認証材を使用した木製品の開発を行い、町産材の利用促進及び付加価値向上を図る。					
事業目的	FSC® 森林認証材の利用促進・付加価値向上					
事業の対象	FSC® 森林認証材					
実施結果	【実施結果】 製品開発					
現状と課題	【現状と課題】 FSC森林認証材を使用した木製品の開発を行い、安価で安全性を見据えた製品開発を行う必要がある。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	1,000	1,000	246	300
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	0	0	1,000	1,000	246	300
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	1,000	1,000	246	300

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	FSC認証材を使用した製品開発個数	目標	個		10	10	3	3
		実績	個	4	19	4		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町産FSC森林認証材を推進するためには、森林認証材を使用した製品開発が必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	美幌町産FSC森林認証材の木製品への支援等取組みは、FSC森林認証の普及や認証材利用促進の発展に繋がるため有効である					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	対象を美幌町産FSC森林認証材に絞ることで、一般材と差別化を図ることができ適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き、FSC森林認証材の取組を推進し、町内外への普及及び製品開発を行い地場産材利用促進事業を実施する。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 利用推進及び認証製品の付加価値向上するため行う。			予算反映額 (概算)	0千円		拡充
今後の改善点	安価で、安全性を見据えた製品開発を行った。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		林業グループ育成事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	03 経営の近代化・効率化の推進			目	01 林業総務費
	施策(小)	01 林業グループの育成・組織強化及び青年林業士を活用した			大事業	02 林業推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	森林所有者の高齢化、後継者問題が深刻化することから、林業グループの活動を支援することにより、林業後継者の育成強化を図る。					
事業目的	林業後継者の育成					
事業の対象	林業後継者					
実施結果	【実施結果】 林業グループ活動費の補助					
現状と課題	【現状と課題】 林業グループの育成及び組織維持のため研修会等を通して、林業後継者への参加を促し組織強化を図る必要がある。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	25	0	55	38	38	38
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	25	0	55	38	38	38
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	25	0	55	38	38	38

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	活動回数	目標	回			4	5	5
		実績	回	4	5	5		
		達成率	%		125	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	森林所有者の高齢化のため林業後継者不足が進む現状では、本事業から手を引くことは出来ないため妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	林業グループの活動への支援は、林業後継者不足を解消することに繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	林業グループ活動補助金を行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが適当である			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		森林づくり推進事業		グループ・担当名	耕地林務グループ森林担当	
				評価者名	経済部長 矢萩 浩	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	XX
	施策(大)	03 林業の振興			項	XX
	施策(中)	03 経営の近代化・効率化の推進			目	XX
	施策(小)	01 林業グループの育成・組織強化及び青年林業士を活用した			大事業	XX
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	FSC® 認証林の利用促進及び、森林の二酸化炭素吸収機能の活用により、企業の社会・環境貢献活動として、森林づくり(森林整備)に参加してもらい、地球温暖化防止(二酸化炭素の吸収)や水源かん養、森林災害の防止など、森林の公益的機能の向上を図る。					
事業目的	FSC® 認証森林の普及・利用促進・機能向上					
事業の対象	FSC® 認証森林					
実施結果	【実施結果】 環境・社会貢献意識の高い企業による森林整備への参加					
現状と課題	【現状と課題】 森林の公益的機能の向上を図るためには関係機関、企業等の連携を図り、環境・社会貢献意識の高い企業による森林整備への参加や普及活動が必要がある。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	0	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	FSC森林認証林の面積	目標	ha		4,458	5,000	5,000	5,000
		実績	ha	4,029	4,458	4,458		
		達成率	%		100	89.16		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	森林の公益的機能の向上を推進するためには、環境意識の高い企業による森林整備が必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	環境意識の高い企業による森林整備への参加が増加しており、地域林業の活性化に寄与しているため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	企業の森林づくりを通して、森林整備協定などを行うことで適正な経費となっている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 FSC認証森林の普及、利用促進、機能向上を行い、森林の公益的機能の向上を図るため行う。			予算反映額 (概算)	0千円		拡充
今後の改善点								